

# 運送業界の健康支援を生きがいに

## 121 SASは追突事故の根源

■運輸業以外でさえ…

「追突事故を減らしたい」と OCHISの東京オフィスのSASお悩み相談会に来所されたのは、運輸業ではない建設工事関係の事業者でした。そして8月、営業車300台を所有する建設関係者のSAS対策がスタートしました。このように、運輸業以外の企業にもSAS対策は始まりつつあります。

さて、本紙読者の中には「SAS検査をしたことがない」という運輸事業者さまはもうおられませんか？ もしおられたとしたら、「助成金まであるのに、どうしてまだ？」と、その認識を疑ってしまいます。痛い目に遭ってからは、もはや遅いのです。

■NASVAの問診票だけでは…

「精密検査をしたら、ほとん



ど寝ていないと言われた」と、重症のSAS患者さんの多くが自分の感覚と精密検査結果との落差に驚きます。SASは睡眠中に症状が出るため、「自分ではほとんど分らない」のが大きな特徴です。したがって、ドライバーさんに、「よく眠れていますか？」「運転中の居眠りの経験は？」と聞いても、ほとんど意味がありません。多くのドライバーさんは眠れている」と答えるでしょうし、職業運転者である以上、「居眠りをしたことがある」などというような回答はしないからです。

したがって、問診票やアンケートだけの質問によるチェックは絶対に避けなければなりません。しかし、OCHISへの検査お申し込みの中でよくある

のが、「NASVAのSAS検査で疑いがあったから」という1、2人だけの検査のお申し込みです。事業者さんの中にはNASVAの問診をSAS検査と思いついておられる方も多いのですが、それは「検査ではなく問診」です。SAS検査はパルスオキシメータなどの医療機器を装着して、一晩の眠りを測定することで初めて分かります。問診だけでは多くの重症SAS者を見落としてしまうことになりかねません。

そして、次によくあるのが、事故発起後のSAS検査のお申し込みです。SAS対策は事故を起こさないための予防対策です。自宅でする簡単なスクリーニングがあるのですから、まず予防対策としてSAS検査を実施してください。

OCHISでは近日中に「運輸事業者のためのSAS対策Q&A50」を発刊します。事業者の取り組みをスタートからフォローまでサポートする内容となっていますので、ぜひ活用ください。(HPでご案内します)

《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》  
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)  
副理事長 作本 貞子  
「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表  
TEL : 06-6965-3666  
FAX : 06-6965-5261  
東京オフィス TEL : 03-3295-1271  
E-mail sakumoto@ochis-net.com  
HP <http://sas.ochis-net.jp/>

(次回は8月10日に掲載)